

吉和川で鮎釣り親睦会が開催されました 🐟

7月18日(土)に「第3回吉和川鮎釣り親睦会」が行われ、25名の皆さんが参加されました。

参加者の皆さんは次々と鮎を釣り上げ、多い人で45匹を釣り上げる好釣果に恵まれ、釣りを通して交流を深め、終始笑顔あふれる親睦会となりました。

8月11日(火・祝)は吉夏まつりが開催されます 🌞

8月11日(火)は吉和夏まつりが開催されます。今年も夏祭りでは、昼と夜の二部構成で、子どもから大人まで一日を通して楽しめる内容となっています。

第1部(13:00～15:00)は、吉和ふれあい交流センター横のひまわり畑を会場に、ひまわりの摘み取りやミニひまわりの鉢販売、とうもろこしのもぎ取り体験などが予定されています。満開のひまわりや吉和の豊かな自然を楽しみながら、ご家族やご友人とゆったりとした時間をお過ごしください。

第2部(17:30～)は、吉和グラウンドを会場にステージイベントやキッチンカーなどが並び、会場を盛り上げます。ステージでは地域で活動する団体や出演者によるパフォーマンスが披露されます。山々に囲まれた吉和ならではの迫力ある花火3,000発をぜひお楽しみください。

当日は混雑が予想されますので、係員の案内に従い、安全な運営にご協力をお願いいたします。

また、吉和ふれあい交流センターは17:00に

閉館予定です。ご理解とご協力をお願いいたします。

お問合せ

吉和ふれあい交流センター ☎0829-77-2116



ツキノワグマに注意しましょう！



近年、全国的にツキノワグマの出没や被害が増えており、吉和地域でもクマの目撃情報が寄せられています。山だけでなく、人家の近くや道路沿い、農地周辺などでも目撃されることがあるため、一人ひとりが十分に注意することが大切です。夏は繁殖期や若いクマの親離れの時期でもあり、行動範囲が広がるため、人里に現れることがあります。クマは本来、人を避ける動物ですが、驚いたり子

グマを守ろうとしたりすると攻撃することがあります。特に子グマを見かけた場合は、近くに母グマがいる可能性が高いため、その場を静かに離れましょう。また、クマは臭覚が非常に優れており、食べ物のにおいに引き寄せられます。生ごみや収穫しないままになっている果実、農作物などを放置すると、人里に出没する原因になります。クマを寄せ付けない環境づくりも大切です。

クマに出会わないために

クマ鈴やラジオなど音の出るものを携帯したり、自分の存在を知らせたり、できるだけ一人で行動せず、複数人で行動する。また、早朝や夕方はクマの活動が活発なため特に注意する。周囲の様子に気を配り、足跡やフンなどクマの痕跡を見つけたら引き返しましょう。

もしクマと出会ってしまったら

走って逃げたり、大声を出したりせず、クマから目を離さないようにしながら、ゆっくり後ずさりして距離を取りましょう。背中を向けて走ると、本能的に追いかけることがあります。

ツキノワグマを目撃した場合

ツキノワグマを目撃した場合は、決して近づかず、ご自身や周囲の安全を確保したうえで、担当部署までご連絡ください。

【お問合せ・目撃情報連絡先】

吉和支所 環境産業建設係 ☎0829-77-2114

ツキノワグマの被害を防ぐために

ツキノワグマの特徴

- 聴覚**：優れている
- 嗅覚**：優れている
- 運動能力**：とても速く走れ、木登り・泳ぎも得意
- 食性**：雑食性に偏った性質
 - ※ササ等の草本類
 - ※イナズメ等の菌類
 - ※ブナ・コナラ等の堅果類
 - ※アザミ等の昆虫
 - ※鳥類・ハチミツなど
- 体長**：100～150cm（オスはメスより大きい）
- 体重**：30～130kg

ツキノワグマの一年

春：冬眠明け
※山菜などを食べて体力回復

夏：繁殖期を迎えて活発に行動
※特にオスの行動範囲が拡大

秋：冬眠に備えて積極的に採餌
※ドングリや松ぼりなどを食べる

冬：冬眠
※熊やけにも要注意

※メスは冬眠中に1～2頭の子どもを出産

ツキノワグマの痕跡

- 成獣オスの足跡
- 木に残された爪痕
- クマの糞
- 柿を食べたあとの糞

ツキノワグマの被害

- 森林木被害（クマ割ぎ）
- タリ被害
- ナシ被害
- 農作物被害

ツキノワグマを目撃したら

クマを目撃したり、農作物などの被害を受けた場合には、管轄の市町村役場へ連絡してください。

吉和の人口(令和8年7月1日)現在				
	総人口	男性	女性	世帯数
	508	252	256	290
先月比	-6	-2	-4	-3